

# トップメッセージ

お客様のご要望や課題解決に  
お応えできる組織体制の  
充実を図るとともに、  
「お客様に喜ばれる商品とサービス」を  
提供し、社会貢献を通じた成長の  
実現を目指します。

## ■ 次の50年に向けてグローバルでの シェアアップを目指します

ユーシン精機は、2023年10月に設立50周年を迎えます。これもひとえにユーシン精機を支えてくださったお客様、お取引先様をはじめとするすべてのステークホルダーの皆さまのご愛顧、ご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

当社は、これまで独自の技術力で市場を開拓し、丁寧な営業とサービス、そして品質向上の取組みで世界シェアの向上を図ってまいりました。世界中にYUSHINブランドの商品を提供する中で、お客様が要望される仕様や納期を満たすために、仕事の仕方を含め、様々な工夫を凝らし、挑戦してまいりました。


次の50年は、これまで自社で養ってきました取出口ロボットを含めた直交型ロボットを中心に、様々な自動化機器において、お客様に「喜んでいただき、安心していただけるベストな提案とサービスを世界中で提供」する会社を目指します。そして、お客様から「真面目で誠実」と評価いただいている社員全員で、時代の要請や社会課題の解決につながる新たな自動化機器を継続的に提供し、社員が「やりがいをもって安心して働ける会社づくり」を進めます。高い付加価値を生み出せるチームづくりを通じて、次の50年を歩んでいきたいと考えています。

## ■ 「できない、無理だ、は出発点」を 基軸に挑戦を続けます

現在、製造現場の人手不足、労働環境の向上（ビジネスと人権）への取組み、新興国を中心とした生活水準の向上、EV（電気自動車）をはじめとした新しい産業の台頭や気候変動問題など、当社をとりまく解決すべき課題や成長テーマが多岐にわたっています。当社としては、これらの課題や環境の変化に対して、直交型ロボットを中心とした自動化装置とそのアフターサービスを通じた、独自の高い付加価値提供を目指しています。当社は「できない、無理だ、は出発点」という創業者の言葉に表現されるように、新しい技術に果敢に挑戦してまいりました。今後は、労働現場における安全性や生産性の向上、省エネなどのテーマをこれまで以上に意識し、課題解決に挑戦することで、工場の自動化をサポートしてまいります。

## ■ 2025年以降は成長軌道への 回帰を目指します

ユーシン精機のビジネスモデルは、ファブライト経営です。その実現には人的資本の強化が重要なテーマであると認識しています。まずは社員の羅針盤となるCI（コーポレート・アイデンティティ）を策定し、人事制度と教育制度の見直しを進めています。人財育成は一朝一夕にできるものではありません。中長期的な視点で着実に実行できる組織の構築に向けた取組みを強化しています。人的資本の強化に向けたロードマップに沿って、この2～3年は人財投資と組織づくりを強化します。2025年以降は、注力している人財投資や商品開発、M&A効果などを通じた成長軌道へ回帰することで、中期経営目標に掲げる連結売上高300億円、連結経常利益50億円以上の実現を目指してステップを着実に踏んでまいります。

A woman with short dark hair, wearing a light blue suit jacket and matching trousers, stands in a laboratory or industrial setting. She is smiling slightly and looking towards the camera. The background is filled with various pieces of scientific equipment, including what appears to be a large microscope or imaging system with multiple lenses and a monitor displaying a circular image. The lighting is bright and even, highlighting the woman and the equipment.

代表取締役社長  
博士(工学)  
小谷 高代

## ■ 社会課題の解決を通じた 価値創造を強化します

2022年8月に私を委員長とするサステナビリティ委員会を設置し、2023年2月に5つのマテリアリティ(重要課題)を特定しました。課題解決を通じたユースン精機の経済および社会価値の向上を図るとともに、サステナブルな社会および環境への貢献に取り組んでまいります。

新たに特定したマテリアリティは、ステークホルダーの視点とYUSHINグループの視点で候補をリストアップしました。それらの候補に対して、各本部から選出されたメンバーによる討議および経営会議を踏まえ、重要度に応じてマッピングを行い、重要性の高い5つの項目を特定しました。

まず、「事業を通じた社会課題の解決」におけるマテリアリティとして、①労働安全性の強化、②お客様工場の生産性向上、③気候変動への対応、を設定しました。労働安全性の強化に関しては、人手に代わって危険な作業を安全性能の高いロボットが行うことで工場の安全・安心に寄与します。また、お客様へ産業用ロボットに関する安全教育を提供します。自社と自社のサプライチェーンについては、安全衛生委員会の継続的な取り組み、サプライヤーまで含めた人権デュー・ディリジェンス(人権DD)を実施します。

お客様工場の生産性向上に関しては、高速・高精度なロボットの開発に加え、お客様にご安心いただける販売・サービス網の強化を図ります。当社ロボットが何らかのエラーで停止した場合、お客様の日々の生産量に大きな影響を与えます。充実したサービス体制と迅速な復旧サポート対応力が求められます。

気候変動への対応に関しては、省エネ商品の開発によりお客様工場の生産過程で発生するCO<sub>2</sub>排出量を低減します。例えば、主力取出口ロボットRC-SEシリーズやYDシリーズでは、当社独自技術のSmart ECO吸着(特許出願中)を搭載し、エア消費量を最大78%カットすることで、お客様工場の省エネ・脱炭素に貢献しています。

## ■ 持続的成長に向けた 経営基盤の強化を目指します

「当社グループの持続的成長に向けた経営基盤の強化」におけるマテリアリティとしては、①人的資本の強化、②コーポレート・ガバナンスの強化、を設定しました。人的資本の強化に関しては、経営目標数値の達成に向けて、社員が一丸となって持続的成長とイノベーションを起こせる人財を育成する風土の醸成を図ります。長期的なロードマップと施策および目標を具体化し、PDCAを通じて実効性を高めています。

コーポレート・ガバナンスの強化に関しては、取締役会の3分の1以上を社外取締役が占め、社外取締役3名のうち1名は資本市場出身の女性です。また社外取締役を委員長とする指名・報酬委員会を設置しており、客観的な立場で公平かつ適正な議論が行われています。加えて、内部通報制度の設定と周知、社員の各種コンプライアンス研修(下請法や個人情報保護法)、データセキュリティの向上なども実施しています。

今後は、目標とするKPIの設定やモニタリング機能などの対応方針を設定することで、実効性を高め、サステナブルな社会および環境への貢献とYUSHINグループの企業価値向上を目指します。

## ■ 2023年3月期業績の振り返りと 2024年3月期の見通し

2023年3月期は、主力の取出口ロボットの需要増に加え、メディカル関連の大口特注機の計上が進み、売上高は過去最高となる前期比7.2%増の223億円となりました。しかし、利益面に関しては、業務効率の改善や為替の円安効果がみられましたが、材料費や海上輸送費の高騰、積極的な人財投資に伴う人件費の増加などから、営業利益は前年比8.7%減の26億円となりました。原材料価格の高騰をうけて商品

の価格改定に踏み切っていますが、大変厳しい1年でした。2024年3月期に関しては、中国市場に不透明感が残りますが、主力の取出口ロボットに加え、メディカル向けの堅調な需要に支えられ、売上高は前期比2.8%増の230億円を見込んでいます。利益面に関しては、引き続き材料価格の高止まりが見込まれるうえ、積極的な人財投資の継続に伴い、前期比9.1%減の24億円の見通しです。今年度も減益基調が続きますが、下期以降は商品の価格改定効果の顕在化が見込まれます。製造業における人手不足を背景とした自動化ニーズは世界的に旺盛で、想像以上のペースで需要の拡大基調が続いています。生産能力の増強を含む迅速な供給・サービス体制の強化が求められます。

## ■ WEMO社とともにシナジー効果の最大化を目指します

2023年5月30日にWEMO AUTOMATION ABの株式を100%取得し、YUSHINグループの新しい仲間が増えました。WEMO社は、1987年に設立されたスウェーデン南部Värnamo（ヴェルナモ）市にある取出口ロボットメーカーです。北欧諸国において高い市場シェアと顧客基盤を有しています。また、取出口ロボットに加えて、自動化装置やパレタイジングロボットも手掛けています。「お客様に喜ばれる商品

とサービスを提供し、信頼される会社」を目指す当社にとってWEMO社がグループ会社となったことは、お客様が安心してロボットを利用し、生産性を高めていくために、欧州においても、高品質な商品を丁寧なサービスでお届けすることを実現する、大きな一歩となります。WEMO社は長年、「革新」、「生産性」、「使いやすさ」といった付加価値創造を大切にした事業展開を行ってきました。高品質な商品供給とともに、アフターサービスにも力を入れてきました。WEMO社とユージン精機の目指す姿は、同じ方向を向いており、未来を共に作っていく中で、この共通の価値観がグループの強みとなり、世界中のお客様に、「安心」と「進歩」をより高い次元でお届けできると考えています。

## ■ コーポレート・アイデンティティ(CI)活動の浸透を通じて、社員の意識改革が進んでいます

「社員の働きがい」については、「自分たちの毎日の仕事がお客様に役立っている」、「私たちの仕事が社会貢献につながっている」と実感できることが重要だと考えています。CI活動を通して、「お客様の立場になって、お客様にプラスになることを考える活動」や「部署間の垣根を越えたコミュニケーションと情報共有に取り組む活動」を行っています。若手・中堅社員から選出したCIアンバサダー（自らCI浸透



### WEMO社タウンホールミーティング

2023年5月末、WEMO AUTOMATION ABでタウンホールミーティングが行われました。社長小谷からWEMO社の社員に向けてYUSHINグループが重要と考える価値とWEMO社が大切にしてきた価値が似通っていること、グループとして共に大きく発展できると期待している、という説明がありました。

への施策を提案し取り組む社員)が提案してくれた活動の一つに、「お客様の声を届ける」というものがありました。現場でお客様が仰ったことを広く社内で情報共有することで、社員全員がお客様に意識を向け、お客様に対して何ができるかを考え、その評価も共有することで、やりがいをもって働ける会社にしていきたいと思えます。また、「働く環境が整っている」ことも大切だと考えています。当社の組織や環境が、働きやすい職場づくりという観点で良いものとなっているかを常に考え、改善を図っていきます。

## ■ すべてのステークホルダーとのエンゲージメントを強化します

今後もお客様の生産性向上に貢献すべく、付加価値の高い商品開発と提案力の強化に加え、ご満足いただき、安心していただけるベストなサービスの提供を図ってまいります。WEMO社と共に欧州市場でのプレゼンス拡大を実現し、世界展開を加速したいと考えています。

ユーシン精機の事業は、サプライヤーの皆さまとの協力関係の中で成り立っています。サプライヤーの皆さまとの信頼関係を大切に、今後もよりよい価値を社会に提供していくために、人権ポリシーなどのテーマについても、一緒に取り組んでいきたいと考えています。

社員に関しては、社員一人ひとりが潜在能力を最大限に発揮し、この会社で、この仲間と働いてよかったと思える「やりがいをもって安心して働ける職場環境」の構築に取り組みます。社員一人ひとりが会社という器を使って社会に働きかけ、より充実した人生を送ることができれば、会社自身も強くなると考えます。

株主還元に関しては、利益還元を経営の重要課題の一つと捉え、安定的かつ継続的な株主還元の実現を目指し、配当性向を30%以上としています。PBRの低迷に関しては、認識しておりますが、マクロ環境における不確実性の高まりに加え、必要に応じて機動的な投資や継続的な商品・サービスの提供を行えるよう内部留保の充実も重要と考えています。全社を挙げて注力している人財投資や将来に向けた商品開発、M&A効果などが実を結び、成長軌道に乗せることで、利益成長を通じたROEやPBRの改善と株主還元の強化を図りたいと考えています。

創業者の「できない、無理だ、は出発点」の考えを基軸に、次の50年に向けてチャレンジを続けてまいります。これからもユーシン精機に変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

